

第3回 竹原市子ども・子育て会議議事録要旨

令和7年1月10日（金）竹原市子ども家庭センター2階会議室

1. 開会

欠席委員 7名

2. 協議事項

(1) 竹原市こども計画（素案）について

事務局より資料説明。

【質問・意見】

委員 主な事業や数値目標は調整中ということですが、パブリックコメントを実施するときに素案はできていますか。また、就学支援で奨学金の貸与とありますが、現在どれくらいの利用があり、返還義務についてはどうなっていますか。

事務局 教育委員会が主管なので正確な回答はできませんが、給付と貸与があります。給付は、アヲハタ奨学金で、大学生に対する事業です。貸与は、大学生や高専の4、5年生など18歳以上を対象とした、中国生コンクリート奨学金基金や久保谷奨学金基金など寄付者の冠のついた基金があり、そこから貸し出しを行っています。市内に居住条件を満たした場合、居住期間に返還を猶予・免除させる制度となっています。このように定住に向けた取組も行っています。その他では、竹原市奨学金という制度もあります。高校生向けとして支度金と月額の奨学金の貸付事業があります。仕組みとしてはこの3種類があります。貸出数などの具体的な資料は手元にはありません。

委員 事務局の説明のとおりです。11月か12月の市広報に詳細を掲載していましたが、実態として利用定員を満たしていない状況です。もっと活用していただきたいという実態があります。国の奨学金制度が充実していることと、周知が十分でないという面があります。

委員 今後、各事業を調整するということがありますが、財政的に厳しいのでなかなか思い切ったことは難しいと思いますが、こどもの貧困対策、貧困の連鎖を断ち切るというのを、前回の会議で委員が発言され、素晴らしい事業にしてほしいと思いました。教育、学力など色々なものが高まるとこどもは自信を持つので、それが生きていく力、希望につながります。経済的な貧困でこどもに教育をさせたいが諸事情により出来ない家庭や、教育に全く関心がない親もいます。放置され、学力が付かない、自信がない、将来への夢を持たないこどもがいると思います。きめ細かく見てあげることで、そのこどもに自信を持たせたいです。学力だけではなく、スポーツをする機会も与えてほしいです。貧困のために本当はスポーツがしたいができない家庭もあると思います。スポーツや音楽などを支援することは難しい面もありますが、こどもに自信を持ってもらう、生き

る意欲を持ってもらう、そのような事業を作ってもらいたいです。こどもを貧困の連鎖から抜け出せる事業をお願いしたいです。

委員 先ほどの奨学金の話で、自分がどのようなものに該当するかもわからない場合があります。学校にこのようなものがあると周知をしっかりとしてもらいたいです。結婚の支援が先でこどもが産まれるようになるのか、こどもが産まれてから教育をよくして竹原市に住んでもらう流れになるのか、よくわかりませんが、とにかく出来ることからしないといけません。計画当初の数値より明らかに下がっています。統計を取って、ただ下がっているというだけでなく、待機児童0の町であるなどいいところをPRして、通勤の途中に竹原市を利用してもらうなど、こどもたちがたくさん竹原市で育っていくような環境を作ってほしいです。ただ単に数字をみて、縮小するのではなく、もう一つパワーを出してもらいたいと思いました。

事務局 貴重なご意見を頂戴しました。数字は令和5年度の値を並べていて、当初の目標より低いですが、まずは出来ることからやっていくことと、色んな制度を十分に活用してもらえるように周知することが、責務であると思っています。目の前にあることを一つ一つ積み上げていき、その結果が集大成となって大きな成果が生まれるので、ご支援をお願いしたいです。

副会長 51ページの新たに整備する子育て支援拠点施設について具体的に知りたいです。

事務局 これは旧庁舎を解体した後の計画です。具体的な建築計画はまだないですが、本年1月6日に新庁舎に移転したので、これから整備する図書館、ホール、子育て支援拠点の機能を盛り込んだ施設という構想になっています。これから旧庁舎を解体の後、整備する予定です。

副会長 民間団体の需要を奪い合わないようお願いしたいです。

委員 短い期間でご苦労だったと思います。前回の会議の時に話題にすればよかったと思いますが、支援を必要とするこどもの項目に外国籍のこどもの観点を持っていたのかと思います。生活保護、就学支援、ひとり親、不登校などのカテゴリーに含まれるのかわかりませんが、外国籍のこども固有の課題である、言語、文化、生活様式など、そこは考えていくべきだと思います。労働人口減少を補完する意味で、外国人は増えていくことを考えると、次の第4期では鮮明な課題になると思います。

前回の会議の後で、中国地方の教育長が集まって勉強をする会議がありました。島根県は人口減少が進む中で、出雲市は減っていません。出雲市における日本人の人口は減っていますが、外国人が入ってきているため、人口が減っていない状況です。それはなぜかという歴史的に時間をかけて対策をしているためです。例えば、ブラジルから来た家庭が、母国語としてポルトガル語を持

つ親が日本に来て産んだこどもは、親の母国語を習得することは難しく、逆に親が日本語を十分に習得できていないので、日本語の習得も難しいようです。出雲市では、住民登録をすると日本語指導教室を用意しています。それをしたことで外国籍のこどもは学習が身につく、中学校を卒業してアルバイトではなく、高校を卒業して地元の企業に就職、あるいは大学へ行き就職、そして市民となり納税者になります。そのような対策が外国人労働者増加の要因となっています。我々は何をすればいいのでしょうか。教育は時間がかかって成果が出るので、今のような発想で、そのような視点を持っておかないといけません。第4期計画ではもっと重要になるので、皆さんのご意見を聞きたいです。

事務局　こども大綱の中で、外国につながりを持つこどもへの配慮という項目もあります。今回、この計画に入れるべき項目だと思いました。現在、人数が少ないため個別の状況を把握できていないので、数値や具体的な経過として入れることができませんでした。第3期の計画においても「困難を抱えたこどもへの支援」「外国につながりを持つこどもへの支援」あるいは「教育機会の保証」になるのかわかりませんが、言葉なり習慣の違う外国人への支援の視点は重要なので、取組の方向性を整理してとりまとめられるようにします。

委員　先ほどの発言のとおりでニーズはあります。特別支援教育相談委員会でも、支援が必要な外国籍のこどもはいますので、ニーズはあると思います。是非支援してほしいと思います。

副会長　保育の現場にいますが、研究課題で外国籍にルーツを持つこどもへの対応があります。自分としては37ページの「困難を抱えたこどもへの支援」の⑤で、竹原市として外国籍にルーツを持つこどもについての支援を考えていると載せるだけでも違うのではないかと思います。

会　長　修正については事務局と調整ということで、会長一任でお願いしたいです。

(2) こども・若者アンケートの結果について

委託業者より資料説明。

【質問・意見】

副会長　中学生、高校生のアンケートとともに、授業中などに促しがあったのでしょうか。中学生より高校生の方が少なくなっている回答結果なので、市外の高校に進学したこどもも対象としているのでしょうか。竹原市に必要な施設の質問は、市外の高校に進学したこどもの回答のほうが重要と感じました。

事務局　実施方法については、Web上にフォームを作り、そこへアクセスできるURLやQRコードを、学校を通じて配布しました。中学生は、市内の中学校2校と義務教育2校で、ホームルームの時間に持っているタブレットで回答頂いたので、2年生、8年生の全員に近い数字です。

高校生は、竹原高校と忠海高校の2年生で、こちらも同じ方法で、その場で回答頂きました。竹原高校と忠海高校は、実は市内から通っている生徒が少ないので、市外在住で通学している生徒も含んでいます。この内訳は不明です。こちらも回答者数は2年生の数とほぼ同じです。市内に住んでいて、市外の高校に通学しているこどもへのアンケートはできていません。

会 長 市外の高校に進学したこどもへアンケートについては、残念だと思います。

事務局 こども計画を作るにあたり、こどもの意見を聞くように指針が示されております。今までは大人の視点で作るのが主だったので、今回初めての形で実施しました。手探りの状況の中で、中学生と高校生にアンケート調査をお願いし、こういった形になりました。

(3) パブリックコメントの実施について

【質問・意見】

事務局 パブリックコメントについて、先ほど頂いた意見の内容を踏まえ、事業名、指標等を整理したうえで、素案を公開して市民の意見を頂くようにします。閲覧期間は、先ほど頂いた意見や各課からの事業のとりまとめにはもう少し時間を要すると思いますので、遅くとも24日までにはホームページで掲載できるように取組みます。その後2月17日まで掲載し、また、健康こども未来課、支所、児童館にも閲覧用の素案を置き、意見を頂くよう考えています。主にはインターネットになると思いますが、意見や回答については次回会議で説明したいと考えています。

パブリックコメントの前に会議で承認を得て実施したいと思いましたが、調整中な項目、今日頂いた宿題があり、早急にまとめて実施したいと思えます。同時に委員へは差替えとして送付します。パブリックコメントまでに、誤字脱字のチェックをしたり、市民に対してわかりやすくなるように、注釈や用語説明、数値だけでなくその内容も分かるような説明を加えたり、内容は変わりませんが、もう一度精査して公開したいです。

委員 今回の素案についての細かい指摘は事務局へ出していますが、入っていない事業名、目標値などについて、特に目標値については施策に対して適切な目標値なのかというところもありますので、それに対して意見を言う機会がありますか。委員の承認を得たもので、パブリックコメントをすべきであって、今回修正をしたものをパブリックコメントまでに委員へ示して承認を得ることが可能なのかということを確認したいです。

事務局 日程的には難しいですが、目標値については早々に設定して、何らかの形で早めにお知らせをしたうえで、パブリックコメントを実施できるようにしたいです。

本来であればこの場で完成したものを示し、承認頂いたものでパブリックコメントを実施するのが筋ではありますが、残念ながら出来ていませんでした。

委員のご指摘のとおり、集まることは難しいですが、可能であれば、送ったものに対して意思表示をして頂き、パブリックコメントを実施したいです。パブリックコメントの基本的な期限を取りながら成果物までという流れの中で、早急に埋めて、委員へ示し、そこで意見を頂くことが可能であれば、それで実施したいと思います。

委員 基本的には委員の承認を得て、パブリックコメントをするのが筋なので最大限努力をしてもらいたいです。

副会長 パブリックコメントと同時に郵送であれば、時間差が出るので、メール等で送って確認頂ければ、便宜上委員の承認を得た形になるのではないのでしょうか。

3 閉会

事務局 この後修正に取り掛かり、委員に確認頂いた後にパブリックコメントを実施したいです。その後の日程については、改めて連絡したいと思います。

以上